

公 民

1 科目編成

改 訂		現 行	
科 目 名	標準単位数	科 目 名	標準単位数
現 代 社 会	2	現 代 社 会	4
倫 理	2	倫 理	2
政 治 ・ 経 済	2	政 治 ・ 経 済	2

必履修科目は、「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」

2 改訂の基本方針

- (1) 公民科においては、広い視野に立って現代の社会の基本的な問題に関する理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うことを、現行と同様に教科の目標としている。

今回の改訂においては、公民科の教科目標を一層徹底するとともに、「知識を一方向的に教え込むことになりがちであった教育」から「自ら学び自ら考える教育」へと、その基調の転換を図り、「生きる力」をはぐくむために、具体的に次のような改善が図られた。

- ア 現行の三つの科目の特質を一層明確にするよう内容の改善を図るとともに、内容を厳選する。
- イ 課題を設定し追究する学習を重視し、各科目それぞれの特質に応じた諸課題を選択的に取り上げて考察する。
- ウ 社会的事象に対する客観的で公正な見方や考え方を深める。
- エ 現代社会の諸課題と人間としての在り方生き方について考える力を一層養う。

- (2) 「自ら学び自ら考える教育」を推進するためには、社会の変化に主体的に対応する能力や態度の育成が重要であることから、基礎的・基本的な内容に厳選し、学び方や調べ方の学習、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習など、生徒の主体的な学習を一層重視するよう改善が図られた。

- (3) 科目編成と必履修科目については、現行と同様であり、「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」がすべての生徒に履修させる科目であるが、各教科において必履修となる科目として可能な限り小さい単位数の科目を設けるという教育課程審議会答申の考え方に沿って、「現代社会」の標準単位数は4単位から2単位に縮減された。

3 改訂の内容

(1) 目標

公民科の目標は次のとおり示されている。

広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

公民科の目標において、社会についての広く深い理解と健全な批判力とによって政治的教養を高めるとともに、真理と平和を希求する人間としての在り方生き方についての自覚を深め、個人の尊厳を重んじ各人の個性を尊重しつつ自己の人格の完成に向かおうとする実践的意欲を基盤として、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うという基本的な考え方については、現行と同様である。

今回、「主体的に考察させ」の文言が新たに加えられたところであるが、このことは、社会的事象に対する客観的で公正な見方や考え方を深め、現代の社会についての理解と人間としての在り方生き方についての自覚を育てるという公民科のねらいをよりよく達成できるようにするとともに、現代社会に対する関心を高め、主体的に課題を追究する問題解決的な学習を重視することにより、人間としての在り方生き方について考える力を養う学習を一層充実させようとするものである。

(2) 各科目

〈現代社会〉

ア 目標

人間の尊厳と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

(ア) 現代社会の基本的な問題について理解することと人間としての在り方生き方について考えることを分離して扱うのではなく、それらを相互に関連させながら学習させるとともに、多様な視点から現代社会をとらえ、様々な領域にかかわる現代社会の諸問題を取り上げて考察する学習を通して、良識ある公民として必要な能力と態度を育成することについては、現行と同様である。

(イ) 今回の改訂において「主体的に考え公正に判断する」という文言が新たに加えられたところであるが、このことは、公民科の教科目標の改訂の趣旨を受け、生徒が主体的に課題を追究し自ら考え自ら判断する学習を重視するとともに、公正に判断するためには、現実の社会では様々な見方や考え方があることを踏まえて考察することの必要性を示唆しているものである。

イ 内容の構成

現行では、「現代社会における人間と文化」、「環境と人間生活」、「現代の政治・経済と人間」、「国際社会と人類の課題」の四つの大項目が設けられ、それぞれ、現代社会に対する認識の一つの枠組みとして、また、現代社会に生きる生徒が自ら人間としての在り方生き方について考える主題として扱われるようになっていた。

今回の改訂では、「現代に生きる私たちの課題」と「現代の社会と人間としての在り方生き方」の二つの大項目から構成されている。

大項目(1)「現代に生きる私たちの課題」については、今回新しく設けられた項目であり、現代の社会的事象が相互に関連し複合的な要因で変化していることに留意し、様々な観点から課題を追究させ、現代の社会をいかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚させることを主なねらいとしている。

そのため、大項目(1)においては、具体的な学習内容を示す中項目が設定されておらず、現代社会の諸課題について、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から課題を追究させ、現代の社会に対する関心を高め、学ぶ意欲と学び方の習得を図ることなど、科目の導入としての役割が期待されている。

大項目(2)「現代の社会と人間としての在り方生き方」については、現代社会を社会生活、経済社会、民主社会、国際社会など多様な視点からとらえさせ、現代社会についての理解を図るとともに、それぞれの視点において自己とのかかわりに着目して人間としての在り方生き方を考えさせることをねらいとしている。具体的には、多様な視点から見た現代社会への理解を踏まえながら、①社会生活においては青年期の意義、②経済社会においては個人や企業の経済活動における社会的責任、③民主社会においては自ら生きる倫理、④国際社会においては日本人の生き方などを中心に考えさせることとしている。

ウ 内容の取扱い

(ア) 大項目(1)の課題を追究する学習については、例示された現代社会の諸問題のうち、地域や学校、生徒の実態等に応じて二つ程度を選択して取り上げ、生徒自身とのかかわりに着目して、課題を設定し追究する学習を展開することが期待されていることから、生徒の興味・関心や生活経験などを生かした課題が設定されるよう、教師の適切な指導や助言が必要である。

また、学び方の習得を図ることにも重点が置かれていることから、「課題の設定の仕方」、「資料収集の仕方」、「社会調査の方法や分析の仕方」、「追究した結果のまとめ方や発表の仕方」などについても適切に指導することが大切である。

(イ) 大項目(2)については、中学校社会科、公民科の他の科目及び地理歴史科などとの関連を図り、学習内容相互の関連に留意しながら、基本的な事項を学ばせることが必要である。

特に、大項目(2)のアについては、生徒の実態等に応じて二つ程度を選択して現代社会の基本的な問題に対する判断力の基礎を培うとともに、人間としての在り方生き方について考える力をより一層養うことができるようにすることが大切である。

〈倫理〉

ア 目標

人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

(ア) 先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、「青年期における自己形成」と「人間としての在り方生き方」について一体のものとして理解と思索を深めさせるとともに、生徒自らが人格の形成に努める実践的意欲を高めることについては、現行と同様である。

(イ) 今回、「生きる主体としての自己の確立を促し」という文言が新たに加えられたところであるが、このことは、いかに生き、いかなる人間になるかという主体的な自覚を深めさせることを目指しており、生徒一人一人が自己実現を果たすためには、自己自身の人生観・世界観ないし価値観の確立を図ることが必要であることから、自己の主体の形成が重要な学習課題であることを示唆しているものである。

イ 内容の構成

現行の三つの大項目による構成が、生徒自身の人生観ないし価値観の形成を促すという観点から、二つの大項目による構成に改められた。

(ア) 大項目(1)「青年期の課題と人間としての在り方生き方」は、自己の課題とかわらせ、青年期の意義と課題を理解させるとともに、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などの理解を通して人間の存在や価値について思索を深めさせることを主なねらいとしている。ここでは、特に、先哲の思想を単に知識として学ぶ学習から、自らの課題とつなげて人間としての在り方生き方について主体的に学ぶ学習への転換を図ることが重視されている。

(イ) 大項目(2)「現代と倫理」は、現代の倫理的課題について自己の課題とつなげて追究し、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせることを主なねらいとしている。ここでは、特に、現代を生きる上での倫理的課題について、自らの生き方につながるような学び方を通して思索を深め、生きる主体としての豊かな自己形成が図られるようにすることを重視している。

ウ 内容の取扱い

(ア) 大項目(1)は、科目の導入としての性格をもつものであることに留意し、先哲の思想については、観点を明確にして取り上げることが必要である。

(イ) 大項目(2)のうち、アについては、現代の倫理的課題について問題意識をもたせることとし、イについては、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、生徒が自己の課題として考えを深めていく主体的な学習を進めることが大切である。

ウについては、これらの学習を踏まえて、学校や生徒の実態等に応じて例示された課題を選択し、主体的に追究する学習を行うこととされており、その際、自然と人間、社会と人間、国際社会と人間という視点に留意しながら、生徒に自己の課題とのかかわりから思索を深めさせることが大切である。

〈政治・経済〉

ア 目標

広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

(ア) 「民主主義の本質に関する理解」は、現行と同様、この科目の基本的な性格を示すものであり、「現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解」は、この科目の具体的な内容を示すとともに、それらについて客観的に理解させることを通して、政治や経済の基本的な見方や考え方を身に付けさせることを示唆しているものである。

(イ) 「諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い」は、生徒が上述の目標を踏まえた学習を通して身に付けた見方や考え方に基づいて、現実の諸課題をとらえ、望ましい解決の在り方を主体的に考察するとともに、公正に判断する能力や健全な批判力をもって対処する態度を養うことを示唆しており、生徒の意欲的な課題追究と多様な観点に立っての課題解決の考察を一層促す観点から、今回新たに加えられたものである。

イ 内容の構成

現行では、「(1)現代の世界と日本」、「(2)現代の政治と民主社会」、「(3)現代の経済と国民生活」の三つの大項目が設けられ、はじめに大項目(1)において現代の世界と日本について総合的に考察させ、大項目(2)と(3)で政治と経済を別個に学習させて、政治や経済の諸事象の本質や関連をとらえさせるという、いわゆる帰納的な構成となっていた。これに対して今回の改訂では、「(1)現代の政治」、「(2)現代の経済」、「(3)現代社会の諸課題」の三つの大項目が設けられ、はじめに大項目(1)及び(2)において政治や経済の基本的な概念や理論を学習させ、それらの理解の上に立って、大項目(3)で現代社会の諸課題を考察させるという、いわゆる演繹的な構成に改められた。

つまり、具体的な探究活動を通して政治や経済についての見方や考え方を身に付けさせ、現実社会の諸課題について事実とつき合わせながら考察させるとともに、身に付けた見方や考え方を吟味することを通して、それらをさらに深化・発展させて、自ら考え判断する能力や態度を育てることができるよう構成されたものである。

ウ 内容の取扱い

(ア) 「政治・経済」は、公民科が目指す目標のうち、特に、公正で客観的な見方や考え方の育成に重点を置く科目であることから、とりわけ、大項目(1)、(2)においては、人類が歴史上形成してきた政治や経済に関する概念や諸理論などの枠組みを通して、政治や経済の諸事象をとらえさせ、公正で客観的に考察させることが必要である。

(イ) 大項目(3)においては、大項目(1)、(2)において学習した内容の理解の上に立って、現実社会における諸課題についての望ましい解決の在り方を考察させることをねらいとしていることから、中項目ア・イに示された諸課題からそれぞれ幾つかを選択して取り上げ、主体的・課題解決的な学習を促すことが大切である。

(ウ) 大項目(1)、(2)、(3)のねらいを達成するため、それぞれに同程度の時間を配当する必要があることから、基礎的・基本的な事項に厳選するとともに、中学校社会科や他の教科科目などとの関連を図り、特定の事項に偏らないよう努めることが肝要である。

4 質疑応答

問1 公民科の履修にかかわって、「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」のいずれかを選択して履修するという組み合わせになっているのはどうしてか。また、公民科3科目の全てを履修させる場合、履修の順序は決まっているか。

公民科の教科目標を達成する観点から、特に、人間としての在り方生き方についての考察に重点を置く「倫理」と、現代社会の諸課題に対する公正で客観的な考察に重点を置く「政治・経済」の両方を履修させることとしたが、「現代社会」については、人間としての在り方生き方についての考察と現代社会の諸問題についての考察を包含して内容が構成されていることから、「現代社会」のみの履修も可能とされている。

次に、公民科3科目の履修の順序は決められていないが、「現代社会」は、総合的な学習から入り、その後、領域的・分析的な学習へと進むよう構成されているのに対し、「倫理」及び「政治・経済」では逆の構成となっていることなど、各科目の特質に留意し、各学校においては、適切な教育課程の編成・実施に努めることが大切である。

問2 公民科3科目のいずれにおいても、選択的に学習課題を設定し、追究する学習を行うこととなったが、このことによって基礎的・基本的な学力は低下しないか。

網羅的に事項・事柄を暗記するという点では、知識の量は減少するかもしれないが、それよりも、生徒が基礎的・基本的な知識や、客観的で公正なものの方や考え方を確実に身に付け、それらを活用して現実社会の諸問題の望ましい解決に向けての考察を深化・発展させることが大切である。そのため、生徒が主体的に学習課題を設定し、課題解決に向けて追究する学習を推進することは、いわゆる「生きる力」の育成へとつながり、基礎的・基本的な学力が低下することにはならないものと考えられる。

問3 「現代社会」の内容が削減され、標準単位数が4単位から2単位に縮減されたのはどうしてか。また、公民科3科目における内容の精選はどのようにになっているのか。

教育課程審議会の答申を受け、各教科において選択必修の科目を設けるとともに、それらの標準単位数を可能な限り小さく設定し、各学校の教育課程編成の一層の弾力化を促す観点から、「現代社会」においても標準単位数を2単位に縮減したのである。

また、「倫理」、「政治・経済」においては、現行通り2単位とされているが、基礎・基本を確実に定着させ、それらを踏まえて課題を選択的に学習する項目が新たに設けられたことなどに対応して、一部内容が削減されるなど精選が図られている。これらのことから、公民科の教育課程の編成・実施に当たっては、高度な事項への深入りを避け、基本的な事項を精選して指導内容を構成するとともに、中学校社会科や地理歴史科をはじめとする他の教科・科目などとの関連を一層図ることが大切である。